

北海道政策研究会

道内調査 in 空知 調査報告書

2013年7月31日-8月1日



小熊院長を囲んで記念撮影（砂川市立病院）

木村峰行（団長）
田村龍治
稲村久男（事務局長）
笹田浩

佐々木恵美子（副団長）
高橋亨
北口雄幸
沖田清志

北海道政策研究会

視察のしおり

日程表 第1日目 7月31日(水)

行き先等	時間	日程等
ホテル集合	14:30	砂川パークホテル集合(チェックイン)、朝食付 6,500 円程度 (JR 砂川駅横 電話 0125-52-3989)
地域医療の状況調査	15:00	砂川市立病院(電話 0125-54-2131) 地域医療の状況及び課題等について視察調査 (中空知地域センター病院、がん拠点病院、救急救命センターなど)
意見交換会及び懇談	18:00 20:00	市立病院関係者と意見交換と懇談(5,000 円程度) 小熊市立病院院長、事務局長ほか

日程表 第2日目 8月1日(木)

行き先等	時間	日程等
ホテル発、移動	09:30	砂川パークホテル出発(自動車に分乗)、夕張市へ
夕張市役所着	11:00	夕張市における再生団体の現状と課題について調査 鈴木夕張市長、厚谷夕張市議ほか
昼食	12:00	昼食(夕張市内)
解散	13:30	夕張市内で解散

【調査結果報告書】

1 日目 7月31日(水)

砂川市立病院(地域医療の状況及び課題等について視察調査)

砂川市立病院(小熊豊院長)は、中空知地域センター病院及び地域救命救急センター、地域周産期母子医療センター、地域がん診療連携拠点病院など、中空知地域の拠点病院である。診療科は22科を有し、90名の医師を確保し、一日当たり1,467人(入院394人、外来1,073人)の患者を診察し、年間4,190件の手術をこなし、年間2,504件の救急車を受け入れている。



小熊院長からのお話では、「砂川市立病院は、110名の医師体制で病院を新築しており、現在の90名の医師数であるが、月20名の出張医が固定化されれば、当初予定の110名の医師数となる計算だ。そして、現在でも年間600日間を地域医療機関へ出張診療しており、110名から120名の医師数になれば、この地域での理想的な医療体制が可能になると考えている。」と、地域医療を確保するために、日々努力している様子がうかがえた。さらに、医師確保の秘訣を伺うと、「医師のモチベーションを高めることが大切だ。そのためには、診療機器の更新や学会への派遣など、やりたい医療をやらせることが大事なのだ」とお話しされた。

さらに小熊院長は、「今後、高齢化の中で、急性期医療とともに、慢性期の患者をどう対応するかなど、課題は山積している。医療、療養、介護、在宅などが、一体となった取り組みが求められている」と熱く語られ、これからの課題を的確に表していると感じたところだ。



2日目 8月1日(木)

夕張市(再生団体の現状と課題について調査)

夕張市は、平成19年3月、353億円の長期負債を抱え、財政再建団体に指定され、平成18年度から平成36年度までの18年間で、この赤字を解消する計画を樹立した。この計画の中では、1)徹底した行政のスリム化と事務事業の見直しによる歳出の削減、2)税率の見直しによる市税の増収を図り、公営住宅などの受益者負担の見直しによる収入増対策を講じ、歳入の確保、を図ることとしている。



その後、平成21年4月に「地方公共団体財政健全化法」が施行され、「財政再建計画」から「財政再生計画」へと移行し、新たな財政再建への道を歩み始めた。この間、赤字解消は順調に推移しているものの、この計画そのものが職員の給与削減が主体でたてられているため、平成18年度には260名だった職員数は、平成25年度では半数以下の103名で行政を運営していることとこと



だ。しかも、その主要な業務を派遣職員で対応しており、現在は北海道13名、市長会4名(札幌市、旭川市、石狩市、岩見沢市、各1名)、東京都2名の19名にのぼり、全職員数の2割に達する状況である。このことに対し、「行政本来の業務を他の市町村の派遣でよいのか」といった意見が出され、人材育成の視点からも、新規採用を国に求めているが、理解を得られるに至っていない。さらに、職員の人件費についても、給与で20%削減、手当で年間1ヶ月分削減など、職員のモチベーションがあがらないばかりか、中途退職職員が後を絶たず、人材確保に苦労しており、「職員に対しても、トンネルの先の光を見せることも必要だ」とのご意見もいただいたところだ。

今後、これらの課題を整理し、夕張市とも連携しながら、国に対し粘り強い働きかけと、北海道に対しても現状に対し更なる支援を求めることなどを確認したところだ。